

第7回

観月 の 夕夕々

月影の
いたらぬ里は
なけれども
眺むる人の
心にぞすむ

平成27年度

10月3日(土) **入場無料**
雨天決行

午後**3時**より

《催しもの》

ピアノ発表会 / 箏と尺八の演奏 / 筑前琵琶による
『平家物語』弾き語り / 落語 / 表千家流お茶席 /
お餅つき / ドリンクコーナー / 屋台 / 他

茶道体験教室
対象:小中学生
生徒募集

於 **総本山光明寺東京別院**

町田市小山ヶ丘1丁目2-1

TEL (042)794-8585

観月の夕べとは

観月とは、月を観賞すること、つまりお月見のことをいいます。観月という言葉の多くは中秋の名月を指すようです。有名なのは、十五夜。旧暦の8月15日から16日の夜にかけての月をいいます。

また、旧暦の9月13日から14日の夜にかけては十三夜とよばれます。

ススキの穂、団子、果物などを供えて、月そのものを祀ります。

日本において観月の夕べは、中秋に、ときの嵯峨天皇が大沢池にて舟を浮かべ、文化人や貴族の方々と歌を詠み、宴を催して遊ばれたことから始まったと云われています。当時の雅人たちは、名月を直接見ずに、杯や池に映して楽しんでいたといわれています。

ここ総本山光明寺東京別院の『観月の夕べ』は、平成21年より「伝統行事の掘り起こし」を起点としてはじまりました。檀信徒さんのご協力を得て、お茶席、生け花、音楽、伝統芸能などを楽しみながら月を愛でる、その様な風情のある時間を過ごしていただきたいと思っております。

あおば ふえ くまがい あつもり 『青葉の笛 熊谷と敦盛』平家物語より

ほ だ きょくれん
奏者 補陀旭蓮 師



源平合戦『一ノ谷の戦で、我が子直家と共に手柄を立てようと誓いあった直実が、合戦前夜須磨の海岸で一人馬上にいると、山の平家軍の方から何とも言えない美しい笛の音が聞こえてきた。

「明日をも知れぬこの命、これこそもののあはれというのであろうか」と、感じ入る直実であった。

夜が明け合戦が始まったが、平家は敗れて船で屋島の方へ逃げる。只一騎逃れ切れず沖の船を呼んでいる武者を直実が見つけ、一騎打ちでなんなく組み伏せる。

兜を取ってみれば我が子と同じ年頃の美しい顔の若者（敦盛）であった。とっさに助けようとしたが源氏方の五十騎程のひずめの音が近付く。

同じ事なら我が手に掛けてと思ひ「必ず後生を弔う」と約束して首をはねた直実が、せめて遺品をその父に送ろうと鎧直垂を探ると一管の横笛が出てきた。

「昨夜のあの笛の主はこの若者であったのか」

悲嘆にくれた直実だが、やがて法然上人の許で出家しました。僧名を「法力房蓮生」といいます。

蓮生法師は、元 源 頼朝の家来で関東武者の熊谷直実であり、総本山光明寺の基となった念仏三昧院を開きました。

落語

きょうゆうてい み さ じ 京遊亭三木治

高校時代より落語研究会をつくり活躍。佛教大学に進み「寄席研究会」を創部、学内学外で数多くの落語会、テレビ、ラジオ等に出演。

同時に昭和 24 年から続く京都のアマチュア落語の会「ピーチクくらぶ」に参加。

落語の祖「安楽庵策伝」上人ゆかりのお寺総本山誓願寺を会場に毎月開催されている「ピーチク寄席」には現在まで毎月出演している。

